



桑名

くわなでチャレンジ

スタート
アップ
×
桑名

実証と共創で開く 地域の可能性

桑名市では、スタートアップと呼ばれる企業とともに、桑名をフィールドとした新たなチャレンジや課題の解決に取り組む「スタートアップとの共創」を進めています。今号は、未来の価値創出に歩みを進める2つの共創事例を紹介します。さらに、桑名出身の“ベンチャーの母”・今野由梨さんのインタビューを交え、地域から生まれる挑戦の物語をお届けします。

問 この記事については秘書広報課 (☎24-1492 FAX 24-1119)

桑名出身
「ダイヤル・サービス」
このゆり
創業者 今野 由梨さん
特別インタビュー

◀P7



桑名のレジェンド
今野由梨さんより
未来の挑戦者へ
メッセージ!

広報 くわな
KU WANA

目次 contents

02 キラリ★くわな人

03 特集 くわなでチャレンジ
実証と共創で開く地域の可能性

08 住み慣れた地域で暮らすための「自立支援」

09 こころとカラダを大切に 女性が自分らしく輝くまち
地域を支える「農業の多面的機能」～みんなで守る農地と暮らし～

10 桑名市総合医療センター通信、くわな防災教室

11 耳より情報、みんなの掲示板

12 EVENT ALBUM(イベントアルバム)

13 くわなINFO

22 無料相談

23 デジタルファースト取りくみレポート
市長まちなか探索

24 私の推しショット



ダイヤル・サービス(株)
代表取締役
このゆり
今野 由梨 さん

桑名市出身の今野さんは、1969年に世界初のソーシャル・ニュービジネスベンチャー、ダイヤル・サービス(株)を創業し、電話相談サービスの分野を切り開いてきました。国内外の女性・若手リーダーの育成や支援にも尽力され、アジア圏の起業家たちから「ベンチャーの母」や「国境なきお母さん」として今も深く慕われています。今野さんにとつての桑名は、まさに原風景。八間通の近くに暮らし、かつて損斐川堤の両側に咲き乱れた桜堤や照源寺、桑名市本町の1kmだけを結ぶ日本一短い路面電車などで過ごした幼少期の風景は、今も鮮明に刻まれているとのこと。当時、街中は家族のような温かさに包まれ、地域の大人が丸となって見守り育ててくれたそうです。また、幼少期は桑名と並行し半分を東京の親族宅でも過ごし、叔父と一緒に丸の内の

オフィスへ出勤し、ビジネスの最先端を肌で感じていたとのこと。桑名で育った豊かな感性と東京で学んだ広くて高い視野。この二つの世界で過ごした経験が今野さんの原点となったそうです。しかし、小学3年生で桑名空襲を体験し、家も大好きな街も学校も全てを失いました。母の叫び声で飛び起き、火の海の中を必死に逃げ惑う中、一度は意識を失いましたが、見知らぬ誰かに背負われ、九死に一生を得て照源寺へと逃げ延びたそうです。この経験が「大人になったらアメリカへ行き、二度と戦争が起きないようこのことを伝える」という強い使命感となったとのこと。目的を果たすため、女性が大学へ行くことすら反対された時代に、東京の四年制大学へ進学。卒業後も壁に直面しながら挑戦を重ね、起業へと踏み出します。詳しくは7ページ「今野由梨さん特別インタビュー」をご覧ください。



八間通の父の自転車店の前
(今野さん右端)

キラリ★くわな人

GEMBA×大洋産業

もの作りの熱意から生まれた現場課題改善アプリ



工場がデジタルマップ化。



課題解決前と後。
フォークリフトの通路と歩行路を明確化。

「安全性を確保したい」 現場改善ツールの 共創が始動

製造業での経験から現場のアナログな管理手法に課題を感じていた株式会社GEMBAの藤井さんは、図面で直感的に課題登録できるアプリを構想。一方「安全」への強い思いを持ちつつも、社内の安全衛生委員会の業務負担に悩んでいた大洋産業株式会社の寺田さんは、藤井さんの構想に深く共感。市の取り組みをきっかけに両社は現場の改善・管理に特化したアプリ開発での共創を決意し、その挑戦を開始しました。



現場改善DXを推進するスタートアップ
株式会社GEMBA
代表取締役社長 藤井 聡史さん

現場の声で磨き上げた 二人三脚のアプリ開発

大洋産業での試験運用とフィードバックにより改良を重ねた「GEMBA」アプリ。その強みは工場レイアウト図上への課題マッピングや進捗の色別表示、写真付きでの状態の見える化です。さらに現場からの「案件ナンバー表示」の要望にも対応し、情報確認の優先順位が一目で分かる仕組みへ進化。現場の声に素早く応えるスタートアップのスピード感で、同アプリはリリースされました。



1961年設立の
鋳物製造会社
大洋産業株式会社
安全衛生委員会
2024年度
推進責任者
寺田 孝三さん

安全管理に対する 意識改革も 現場DXがもたらす 未来の展望

大洋産業ではアプリ導入後、課題を隙間時間に確認できるようになり安全性への共通認識が醸成。工場内の整理整頓につながる相乗効果もありました。寺田さんは、若手社員がスタートアップとシステムを創りあげた経験が人材育成につながった」と振り返ります。藤井さんは「今後は設備保全や品質管理など生産性向上につながるサービスを拡張したい」と、さらなる現場改善の展開へ向け意気込みを語りました。

現場の声



大洋産業株式会社
安全衛生委員会
遠藤 亜子さん

GEMBAアプリを取り入れることで、全従業員が隙間時間に課題場所が確認できるように。自主的に改善を進める従業員も増え、社内の安全に対する意識が上がりました。

StarBoard×瀬木鋳造所

インドネシア人材が伝統産業に吹き込む新しい風



採用後も面談を行い手厚くサポート。



左より瀬木さん・アズハリさん・東さん。

人手不足を打破した 手厚い入国後サポート

深刻な従業員不足に悩んでいた株式会社瀬木鋳造所を支えたのは、インドネシア特化型の人材スタートアップ株式会社StarBoardです。同社は人材を紹介して終わりではなく、月1回の定期面談や企業への文化研修など、徹底した「入国後の定着サポート」が強い。文化の違いへの事前共有や手厚い日本語指導もあり、初めてインドネシア人を受け入れた瀬木鋳造所でも、現在は6人が活躍しています。



インドネシア人材に
特化した
人材総合サービス
株式会社StarBoard
あずまこうへい
COO 東 航平さん

文化の壁を越え 職場の活性化の契機に

インドネシア人社員の明るく勤勉な人柄や自発的な会話は、瀬木鋳造所の雰囲気を一変させました。代表取締役の瀬木さんは「向上心が高く積極的に質問してくれる。従業員も熱心に教え、共に学ぶ好循環が生まれている」と語ります。異文化に触れることは日本人社員の視野を広げる契機にもなり、人種や国境を越えて日常的に支え合い尊重し合うことで、職場が活性化する新たな組織文化が育まれています。



1961年創業の
鋳鉄メーカー
株式会社瀬木鋳造所
代表取締役
瀬木 紀夫さん

人材の多様化が 地場産業の未来を照らす

瀬木鋳造所のアズハリさんは鋳造技能士1級に合格し特定技能(即戦力)となる熟練した技能を持つ外国人の在留資格)2号を取得、家族を呼び寄せました。瀬木さんは「優秀な人材が上をめざし、地場産業が世界的に発展してほしい」と期待を寄せます。StarBoardでは、近年企業と人材の相性を可視化するシステムを構築。COOの東さんは「桑名が外国人受け入れのモデルとなるよう、今後も定着支援に力を入れたい」と力を込めます。多様な人材が地域産業の未来を支えます。

現場の声



株式会社瀬木鋳造所
アズハリさん

特定技能2号に合格して妻子を日本に呼ぶことができました。会社では仕事のことも相談に乗ってくれます。さらに活躍できるよう技術を磨いていきたいです。

桑名を舞台に新たな価値創出に挑戦！

事業共創プログラム「MASH UP! KUWANA」

桑名とスタートアップとの共創で、
桑名の未来をつくる

全国からプランを募集
市内を舞台に実証へ！

市は2024年3月、スタートアップとの共創を戦略的に推進していくことを目的として「くわなスタートアップ・オープンフィールド戦略」を策定。共創を生み出し続ける仕組みの構築をめざした事業共創プログラム「MASH UP! KUWANA」も同年に始動しました。市役所や市内事業者、地域団体などとスタートアップが一緒になって新たな価値の創出をめざす取り組みとして、市内外から注目を集めています。

本プログラムは、市内も含めた全国から提案を募集。スタートアップは募集サイトで提示されたテーマから自社にあった内容を選択し、共創プロジェクトプランを記入しエントリー。今年度は、9月に募集を開始し、書類審査を通過したスタートアップは、12月3日開催予定のイベント「MASH UP! KUWANA Special Day」で、市長や審査員、一般来場者に自らのプランを披露。その場で審査が行われ、複数の候補の中から採択されたスタートアップは、桑名を舞台とした実証フェーズへと進みます。



「MASH UP! KUWANA 2025 Special Day」の様子。



2024年度採択スタートアップによる事例報告。

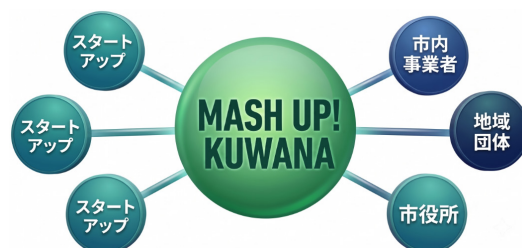


2025年度採択候補者(当時)による共創プロジェクトプラン発表。



「MASH UPで生み出すくわな×スタートアップの相乗効果」についてトークセッション。

「MASH UP! KUWANA」の役割



スタートアップが桑名のさまざまなプレイヤーとともに新たな価値創出をめざすハブとなっています。

くわなスタートアップ・オープンフィールド
ランディングページ

問 スマートシティ推進課
☎ 24-1338 FAX 24-1435



これまでの採択プロジェクト

- カーボンクレジットを活用した新たな農業の実現(株式会社Jizoku)
- 「桑名市」一体となつての人材確保、定着ソリューション(株式会社StarBoard)
- 経営診断サービス及び自治体補助金DXサービス(株式会社Stayway)
- AIを活用した下水道管路・マンホール蓋の点検業務DX(株式会社Dioptra)
- モノづくり企業の巡回業務DXサービスの実装プロジェクト(株式会社GEMBA)
- 誘引餌「ジャンタニコイコイ」による稲作の持続的防除モデル(菊池拓仁さん)
- 人とデータがめぐる持続的な観光モデル構築(ソーシャル・アイディー株式会社&株式会社Plaru)
- サル出没通知×安心地域づくり(株式会社FaroStar)
- Traditional activities in 桑名(物語運輸株式会社)

「逆境や試練も起こったことには全てに意味がある」

ベンチャーの母・今野由梨さん特別インタビュー

時代のニーズに応じ命と心を救う
日本初の電話相談サービス

ダイヤル・サービス株式会社は、1969年に創業した日本初の電話相談サービス企業です。子育てを支える「赤ちゃん110番」を原点に、企業のハラメント窓口や自治体向けの育児・メディカル相談、高齢者支援など、時代のニーズに即した多彩な窓口やBPO事業を展開しています。相談員は全員が産業カウンセラーや看護師などの有資格者で、電話だけでなくWEBやSNSなど新しいツールも導入。磨き上げた「耳を傾ける力」「会話を力」で、社会課題と向き合い人々の心に寄り添い続けています。

未踏を駆け抜け創り上げた
通信・情報サービスの礎

今野さんのキャリアは、常に「先駆者」としての挑戦の連続でした。「仕事は男がするもの」との理由で10社全て不採用を経験したこと、「ならば女性が活躍する時代を自分で創る」と決意。当時、単なる連絡手段でしかなかった電話を、人々の悩みやニーズに応える高付加価値情報「サービス」へと昇華させました。インターネットがない時代に、のちのインターネットやWEBサービスで行えるような「情報インフラの仕組み」を日本で先駆けて作り、世界に根付かせたのです。今野さんが開いたその道は、次世代の挑戦者たちへの確かな礎となっています。

奇跡の人生を生き抜く！
未来の挑戦者へメッセージ

女性起業家が皆無だった時代にダイヤル・サービス株式会社を創業し、50年以上業界を牽引し続ける桑名市出身の今野さん。道なき道を切り開いてきた「ベンチャーの母」から、未来の挑戦者へメッセージを贈ります。

女性起業家がまだいなかった時代に、女性が力を発揮できる場を生み出し続けてきた経験を回顧し「逆境や試練も起こったことには全てに意味がある」と語る今野さん。「失敗で立ち止まるのではなく『よし、次だ！』と踏み出す気概が大切。一度きりの奇跡の人生、自らの使命を果たす覚悟を抱いてほしい」と力をこめます。「故郷である桑名は、歴史文化や自然の恵みがある街。それを忘れずその土台に感謝と誇りを持つことが挑戦へのパワーになります。たくさんの経験を重ねてください」と次世代の挑戦者たちへ、熱いメッセージを届けてくれました。



創業時の今野由梨さん。



1994年「THE COMMITTEE OF 200」に初の日本人メンバーとして参画。

PROFILE

ダイヤル・サービス株式会社
代表取締役 今野由梨さん

桑名市出身。津田塾大学英文学科卒業。1969年に日本初の民間電話相談企業を創業、「赤ちゃん110番」などの先駆的サービスを世に送り出す。女性起業家の草分けとして社会課題に挑む一方、国内外の多くの起業家との交流を重ね、若手起業家の育成・支援にも力を注ぎ、「ベンチャーの母」と称される。政府の審議会など約50の公職も歴任。2007年に旭日中綬章を受章、2025年には津田梅子賞を受賞。